輝 いてます

# 教育支援は細く、長く。
# 健康である限り続けます。

くわやまとしこ
## 桑山利子さん（67歳・今池町）

**スリランカの学生を支援しながら高校を卒業**

新聞配達のパートをして得た給料全額をスリランカの学生支援のために送金し続け13年。総額は500万円を超え、高校・大学に進学した学生は41人。4年前から自らも安城高校定時制へ通い、今年3月、無遅刻・無欠席で卒業されました。

**■学生支援のきっかけは?**

新聞配達を始めて5年目くらいでしたか、偶然読んだ記事でスリランカの学生たちが苦労しているということを知りました。私も幼いころ、高校へ進学したかったけれど、家庭が貧しく、できる状況ではなかったんです。ですから少しでも助けになるのであればと思い、送金しました。教育は少しでも早いほうがいいでしょう?

**■ご自分は4年前に受験されましたね?**

はい。支援している子たちが送ってきた手紙が、勉強できる喜びにあふれていて、私も高校に行きたくなりました。自分の子どもも手を離れて、今なら私も行ける!と思ったんですよ。50年来の夢がかなってとても幸せです。

**■志を遂げる原動力は?**

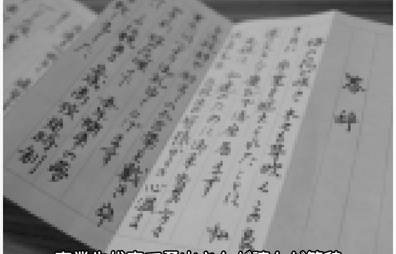
私の場合は、小さいときの苦労が宝。貧しくても愛情のこもった料理を家で食べれば心は豊かになります。今でも生活は倹約を心掛け、愚痴は言いません。努力したことを認められて、褒められて育ちました。勉強が好きになったり、何かに一生懸命になったりするのはちょっとしたことがきっかけになります。

そして、たくさんの人に感謝しています。今までご近所の皆さんにもよくしていただきました。これからも仲の良いお付き合いをしたいです。家族も優しくしてくれるし、恵まれています。こうした人々とのふれあいが幸せの原点ですね。幸せが力を与えてくれます。

**■ほかにしたいことは?**

まずは健康チェック。身の回りのものを片付けたり、学生支援だけでなく地域のためになること、例えば小学生のお迎えボランティアや公園の草取りをしたりね。それから英語も基礎から再勉強したいです。

スマトラ沖地震で被害を受けた学校再建の支援もしていて、再建したら見学に行けるんです。そのとき、今まで手紙でやりとりをしてきたスリランカの子どもたちに会えることを楽しみにしています。



卒業生代表で桑山さんが読んだ答辞

**筆者のつぶやき**

性格は負けず嫌いで人と話すことが好き。小さいときの苦労やつらさなど愚痴もこぼさず、人に感謝してばかりの桑山さん。高校の卒業式に駆けつけてくれたお友達もいたとか。感謝の気持ちを忘れない桑山さんの優しさにひかれて周囲の人も優しくなるのでしょうね。